

松田町地域公共交通計画

【 地域特性・現況交通の状況 】

令和4年7月

松 田 町

松田町地域公共交通計画 検討会資料

目 次

第 1 章	地域特性・現況交通実態の把握.....	2
1-1	地域の現況.....	2
1.	位置及び地勢.....	2
2.	人口.....	3
3.	主要施設の立地状況.....	6
1-2	現況交通の状況.....	8
1.	鉄道・道路網.....	8
2.	バス交通.....	9
3.	タクシー.....	10
4.	福祉有償.....	10
5.	その他.....	10
1-3	上位・関連計画の整理.....	11
1.	第 2 期松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略.....	11
2.	松田町都市計画マスタープラン.....	11
3.	新松田駅周辺整備基本構想・基本計画.....	12
4.	足柄広域新モビリティサービス事業計画（素案）.....	13
5.	松田町立地適正化計画.....	13
1-4	地域特性の整理.....	14
1.	都市圏特性と松田町の位置づけ.....	14
2.	地形・地勢により町域南北で大きく異なる交通条件.....	14
3.	高齢化の進展に伴う交通需要の変化.....	15
4.	日常生活における広域的な移動の実態.....	15

第1章 地域特性・現況交通実態の把握

1-1 地域の現況

1. 位置及び地勢

(1) 位置

本町は神奈川県西部に位置しています。町域面積は 37.75k m²であり、県内 33 市町村の中で 17 番目の大きさの自治体です。

町は松田惣領、松田庶子、神山及び寄の 4 地区から構成されています。

東京都心から約 75km 圏内、横浜から約 45km 圏内にあり、丹沢山系から連なる松田山、檜岳、高松山、雨山などの緑豊かな山々や、酒匂川、川音川、中津川などの美しい河川を有する、自然に囲まれた都市です。

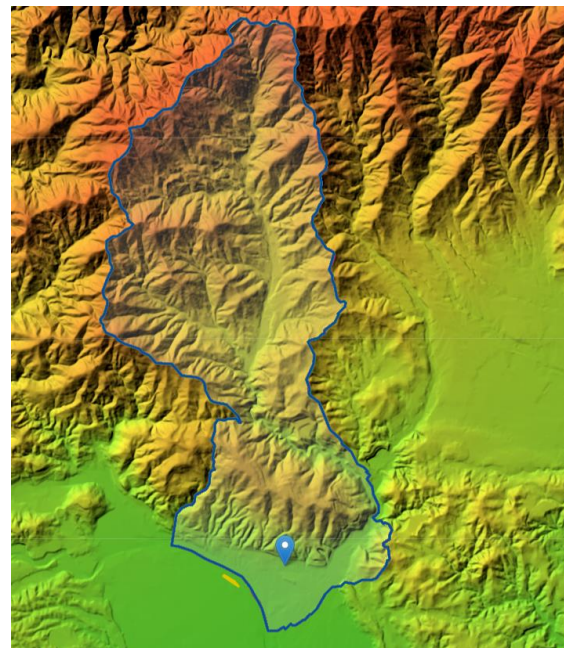


(2) 地勢

本町は、酒匂川、川音川、中津川とそれらの支流となる河川流域が町の概要をなしています。

北部は丹沢大山国定公園に指定されている西丹沢山系の 1,200m 級の高峰がそびえ、寄地区が丹沢山塊の南端となる中津川流域を担い、南方に足柄平野北端であり酒匂川東岸をなす地域に松田惣領、松田庶子が存在します。また、川音川を挟んで南東方向に神山地区があります。

地形は、東名高速道路を挟んで、南側は平地、北側は丘陵地帯となっています。



出典：国土地理院デジタル標高地形図

2. 人口

(1) 総人口・世帯数

本町の総人口は、昭和 22 年以降順調な増加傾向となっていました。平成 7 年国勢調査の 13,270 人をピークに減少に転じ、令和 2 年国勢調査では 10,836 人となっています。

人口が減少する中で、世帯数は停滞傾向にあり、令和 2 年国勢調査では 4,572 世帯となっています。

1 世帯当たり世帯人員は年々減少しており、核家族化や単身世帯の増加が伺えます。

令和 2 年国勢調査による松田町の核家族世帯の割合は 56.8%、単身世帯の割合は 32.0%、65 歳以上世帯員のいる世帯の割合は 52.5%となっています。

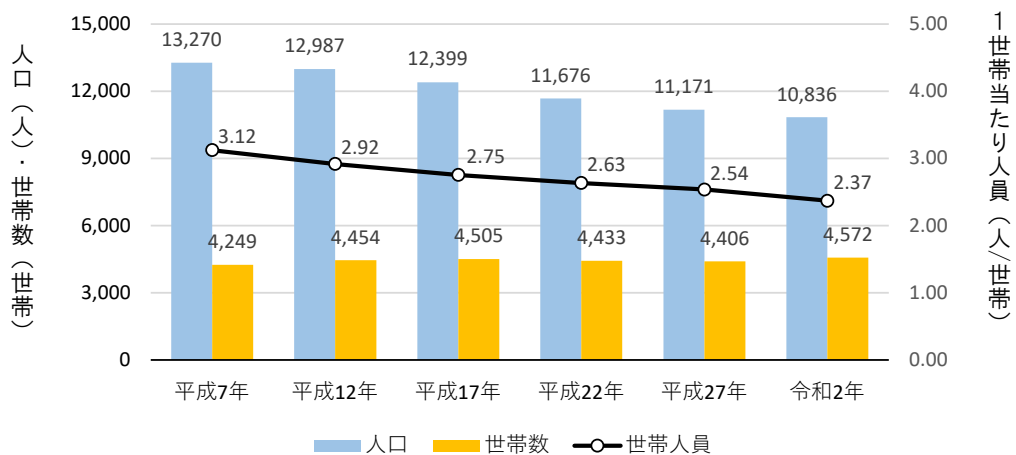


図 人口・世帯数・1 世帯当たり世帯人員の推移

資料：国勢調査

(2) 年齢3区分別人口

令和 2 年国勢調査による年齢 3 区分別人口の割合をみると、年少人口（15 歳未満人口）は 9.6%（1,030 人）、生産年齢人口（15～65 歳未満人口）は 56.3%（6,030 人）、老年人口（65 歳以上人口）は 34.1%（3,651 人）となっています。

年齢 3 区分別人口の推移をみると、年少人口で減少傾向が続いている一方で、老年人口が年々増加傾向となっており、少子高齢化が着実に進行しています。

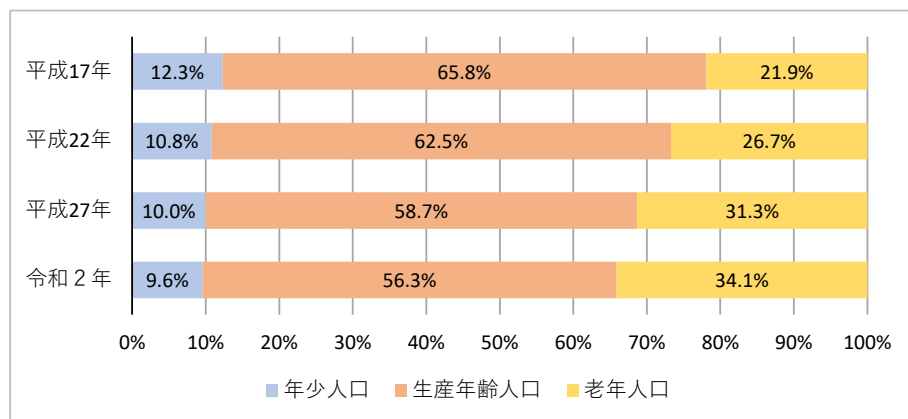


図 年齢 3 区分別人口の推移

資料：国勢調査

(3) 地域別人口

国勢調査により本町の4つの地域別人口をみると、平成22年(2010年)から平成27年(2015年)にかけて松田惣領のみ増加がみられるものの、他の3地区は減少しており、特に寄地区の減少が著しくなっています。

表 4つの地域別人口の推移

	平成22年	平成27年	増減率
松田庶子	2,519	2,501	0.99
松田惣領	5,896	5,960	1.01
神山	930	891	0.96
寄	2,331	2,119	0.91
計	11,676	11,471	0.98

資料：国勢調査

表 自治会別人口

自治会名	人口
町屋	1,458
店置場	850
神山	824
茶屋	257
河内	516
中丸	331
中央	199
仲町	328
新松田	145
谷戸	255
中沢	115
沢尻	746
谷津	350
宮前	250
かなん沢	406
中里	465
城山	827
仲町屋	544
萱沼	108
弥勒寺	595
中山	26
土佐原	44
宇津茂	212
大寺宮地	194
虫沢田代	316
湯の沢	320
合計	10,681

令和4年5月末現在

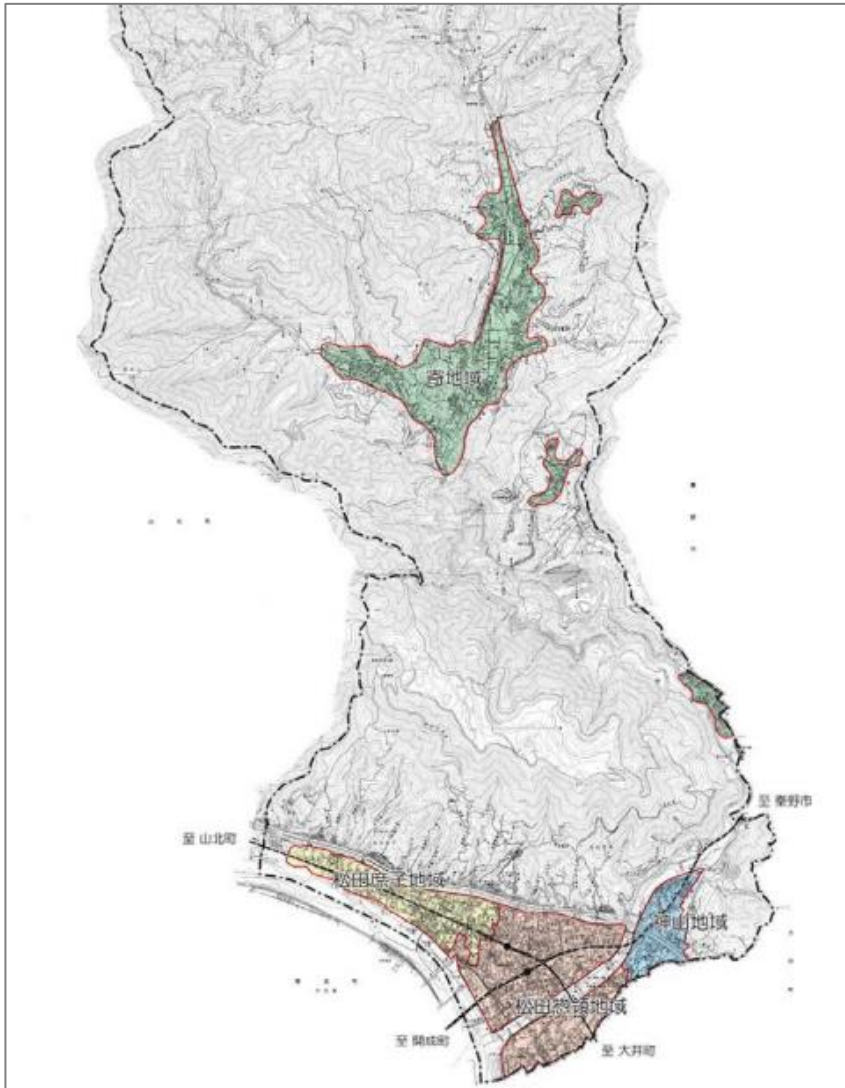


図 地域区分図

(4) 通勤・通学流動

通勤流入先をみると、本町の就業者全体に占める他市町村で従業する就業者が約7割を占めていることから、他都市に依存する就業構造となっています。

特に、主な流出先では、小田原市をはじめとして、秦野市や南足柄市、大井町、東京特別区、開成町、横浜市等となっている一方で、流入先では小田原市や秦野市、南足柄市、大井町、開成町、山北町等の隣接・近接する市町であり、昼間の就業者全体の約6割を占めています。



図 通勤流出先



図 通勤流入先

流出状況					流入状況				
	通勤		通学			通勤		通学	
	人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合
総数	5,436	100.0	546	100.0	総数	4,295	100.0	1,131	100.0
町内で従業・通学	1,523	28.0	85	15.6	町内で従業・通学	1,523	34.5	85	7.5
他市町村で従業・通学	3,787	69.7	452	82.8	他市町村に常住	2,601	60.6	1,033	91.3
県内	3,303	60.8	346	63.4	県内	2,477	57.7	990	87.5
小田原市	821	15.1	87	15.9	小田原市	505	11.8	137	12.1
秦野市	495	9.1	36	6.6	秦野市	460	10.7	128	11.3
南足柄市	288	5.3	15	2.7	南足柄市	305	7.1	55	4.9
大井町	286	5.3	10	1.8	大井町	278	6.5	28	2.5
開成町	212	3.9	15	2.7	開成町	263	6.1	19	1.7
横浜市	157	2.9	43	7.9	山北町	137	3.2	6	0.5
県外	439	8.1	102	18.7	県外	124	2.9	43	3.8
東京特別区	230	4.2	54	9.9	静岡県小山町	24	0.6	2	0.2

資料：平成27年国勢調査

3. 主要施設の立地状況

(1) 公共公益施設、教育施設、福祉施設等

町内の主要な公共施設、教育施設、福祉施設等は、図に示すように東名高速道路以南の平坦部に多くが集中しています。



(2) 医療施設

本町には、神奈川県立足柄上病院が立地しているほか、医院・診療所が8施設立地しています。周辺都市も含めた主な医療施設の分布状況は下図のとおりです。

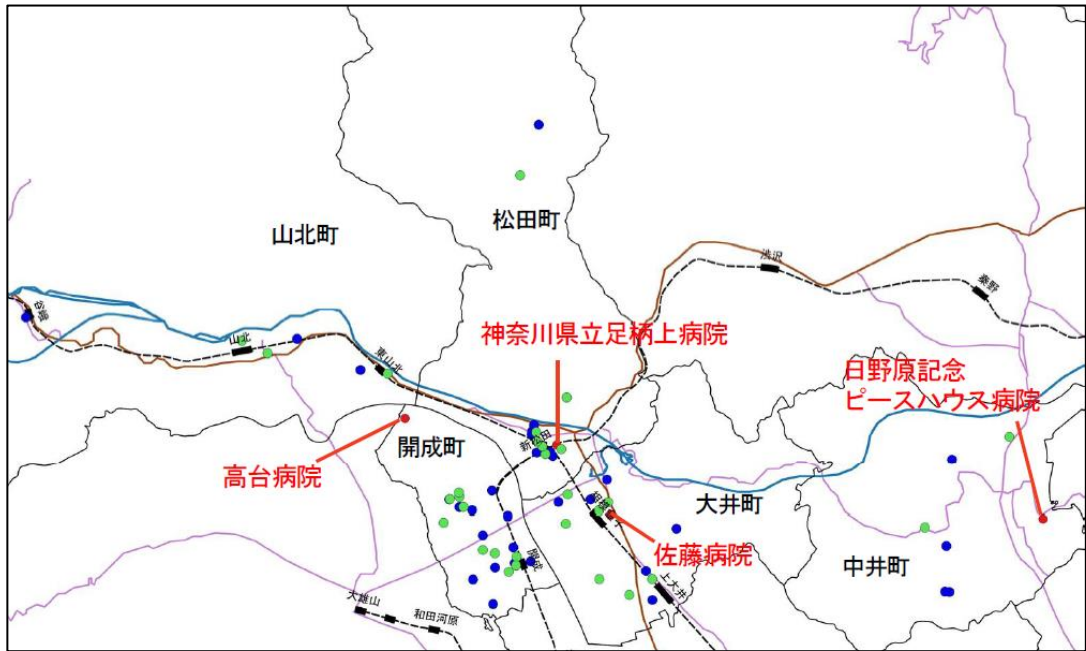


図 医療施設の立地状況

出典：あしがら地域広域ビジョン

(3) 商業施設

本町の商業施設としては、スーパーマーケットのすまやストア、ロマンス通り商店街、仲町通り商店街がありますが、町内には大規模小売店舗は立地していない状況です。

このため日用品の買い物も含め、隣接する大井町、開成町の大規模小売店舗で購買することが多くなっています。



図 主な商業施設の分布図

出典：あしがら地域広域ビジョン

1-2 現況交通の状況

1. 鉄道・道路網

- 本町の鉄道は、JR東海御殿場線松田駅、小田急小田原線新松田駅の2線2駅が整備されており、東京都心部や静岡県、小田原市と結ばれています。
- JR東海御殿場線松田駅と小田急小田原線新松田駅とは、相互乗換駅としての位置づけは有するものの、両駅が駅前広場を挟んでの連絡となり、永年にわたりその乗換えの不便解消が求められています。
- 道路は、東名高速道路（大井松田IC）、国道246号、国道255号といった広域幹線道路が整備されており、県東部、県南部、東京・静岡方面と結ばれています。
- 町域北部の寄方面には、地域主要道路として県道710号神縄神山線が通っています。

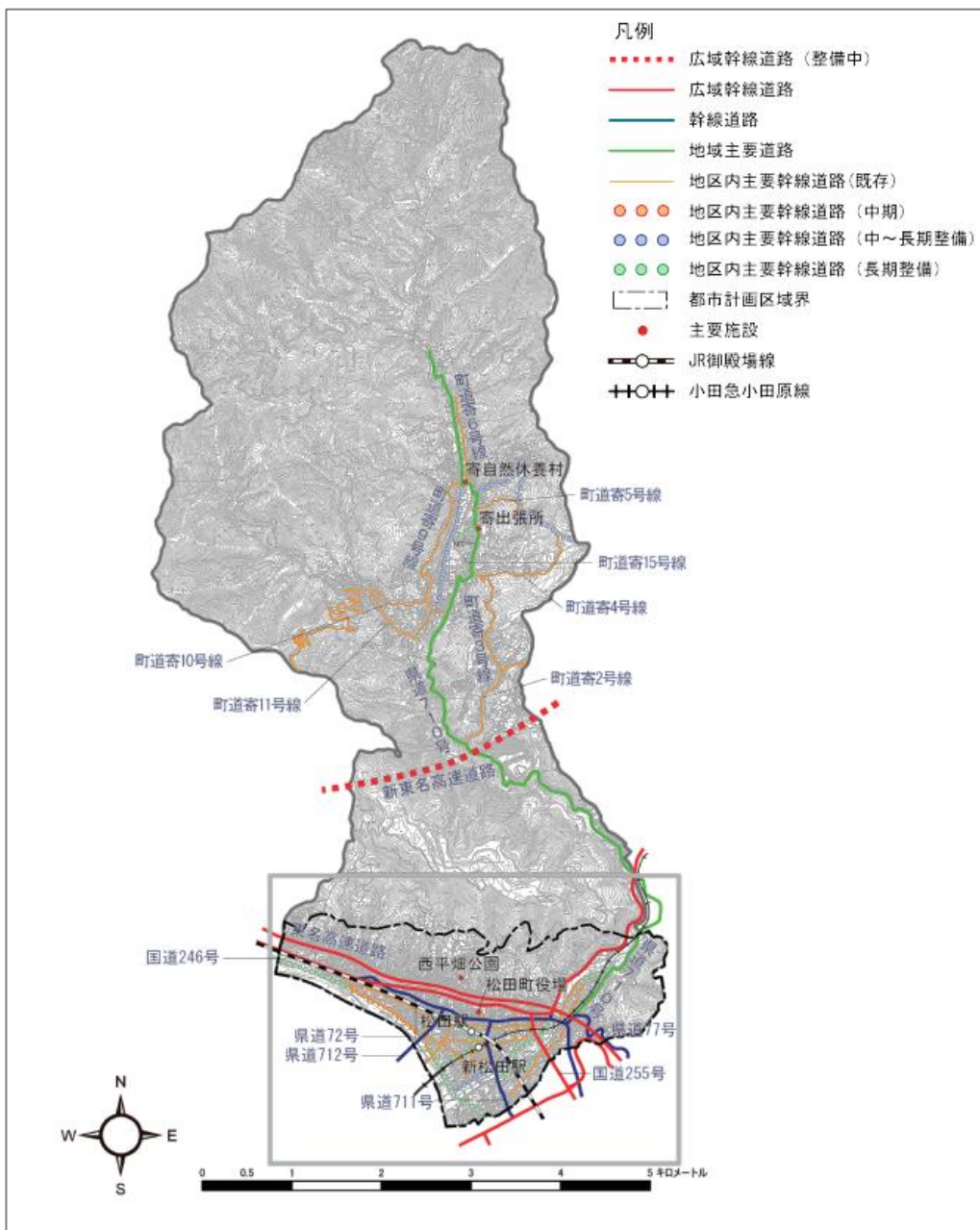


図 鉄道・道路網図

出典：松田町都市計画マスタープラン

2. バス交通

- バス交通の運行状況を見ると、新松田駅北口駅前広場のバスターミナルを拠点として、本町町内、山北町、開成町、南足柄市、大井町、小田原市方面への民間の路線バスが運行されています。
- 北口駅前のバスターミナルを含む駅前広場が狭隘であることによる交通混雑や歩行者の安全性の欠如が、従来から問題点として指摘されており、これに対し、平成 21 年度より、新松田駅南口に新たな駅前広場整備事業が開始され、ターミナル駅周辺の交通流動の改善に向けた取り組みが着手されています。
- 一方、近年では、松田町を含む酒匂川流域の圏域においては、路線バスの減便、廃止等の退出が頻発し、交通空白地域、交通不便地域の拡大が進行しています。

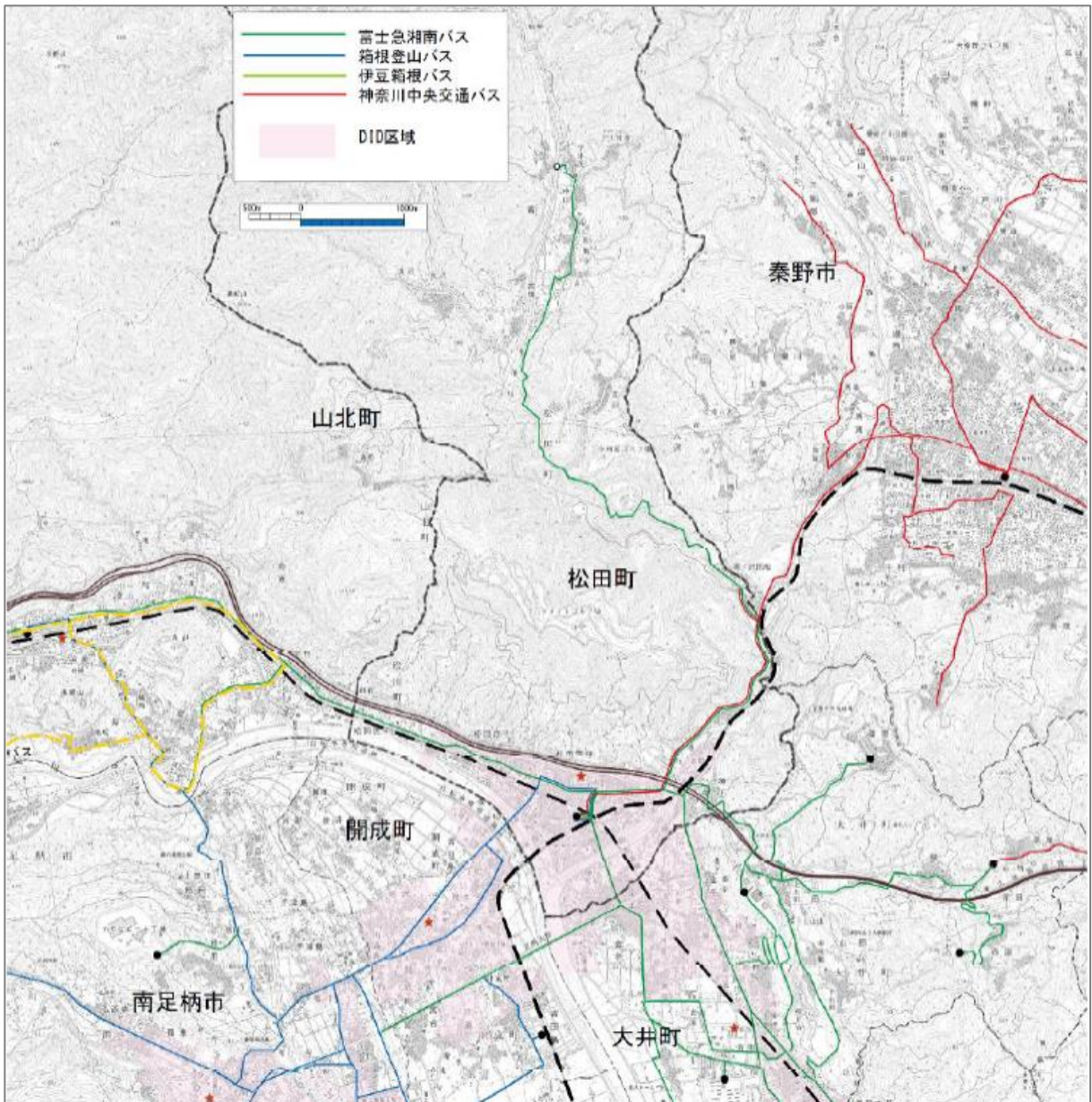


図 松田町を中心とする公共交通路線図

出典：松田町地域公共交通総合連携計画

3. タクシー

- 本町に拠点を置くタクシー事業者には、松田合同自動車株式会社、株式会社丹沢交通、福祉タクシーさんぽの3社があります。

4. 福祉有償

【松田町社会福祉協議会】

- ・町内在住で、公共交通機関を利用しての移動が困難な高齢者及び障害者を対象に、社会福祉協議会所有の車輛による送迎サービスを行なっています。
- ・運行範囲は、足柄上郡、南足柄市、小田原市、秦野市、伊勢原市、中郡（大磯町、二宮町）です。

【NPO 法人在宅福祉 しあわせサービスあしがら】

- ・身体障害者、要介護認定者、要支援認定者、その他肢体不自由などの障害を有する方の中で、他人の介助なしの移動が困難で、タクシー等の公共交通機関を一人で利用することも困難な方を対象に、送迎サービスを行っています。
- ・運行範囲は、出発地か到着地の少なくともどちらかが、足柄上郡の松田町・大井町・山北町・開成町、及び南足柄市の区域内となる場合に制限されています。

5. その他

【松田町立中学校スクールバス】

- ・松田中学校へ通学する寄地区生徒の登下校用としてスクールバスが運行されています。スクールバスは、朝夕、部活便と一般登下校便の各2便を運行しています。

【買い物支援サービス「げんき号」】

- ・松田町社会福祉協議会が2021年11月から高齢者の買い物支援を目的に買い物ツアーサービス「げんき号」が運行されています。
- ・寄地区在住の70歳以上の高齢者のみの世帯で、自家用車や公共交通の利用が困難な人、一人で車の乗り降りや買い物ができる人が対象です。

【移動スーパー「くるまつくん」】

- ・2016年から官民連携事業として松田町で始まった買物支援事業・移動スーパー「くるまつくん」。専用車両が生鮮食品や生活必需品など約400品目1千点を積んで事前に決められた拠点を回り、地域の買い物をサポートしています。
- ・合わせてドライバーが見守り活動も行い、孤独死などを未然に防ぐことも特徴となっています。

1-3 上位・関連計画の整理

1. 第2期松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略

(2020 改訂版 令和2年3月策定 令和3年3月改訂)

(1) 松田町人口ビジョン

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると令和22年(2040年)における本町の総人口は7,055人まで減少することが予測されています。

本町の独自の推計では、総合計画にも位置付けているとおり「①合計特殊出生率を上げる方策」「②社会移動(転入・転出)を“±0”にする方策」「③新たな宅地・住宅の供給」を進め、出生率の上昇や社会減の抑制につながる施策を行いながら、松田町の強みを活かし、まちづくり戦略プロジェクトを中心とした事業を戦略的・加速的に展開して令和22年(2040年)における目標人口を10,000人と設定します。

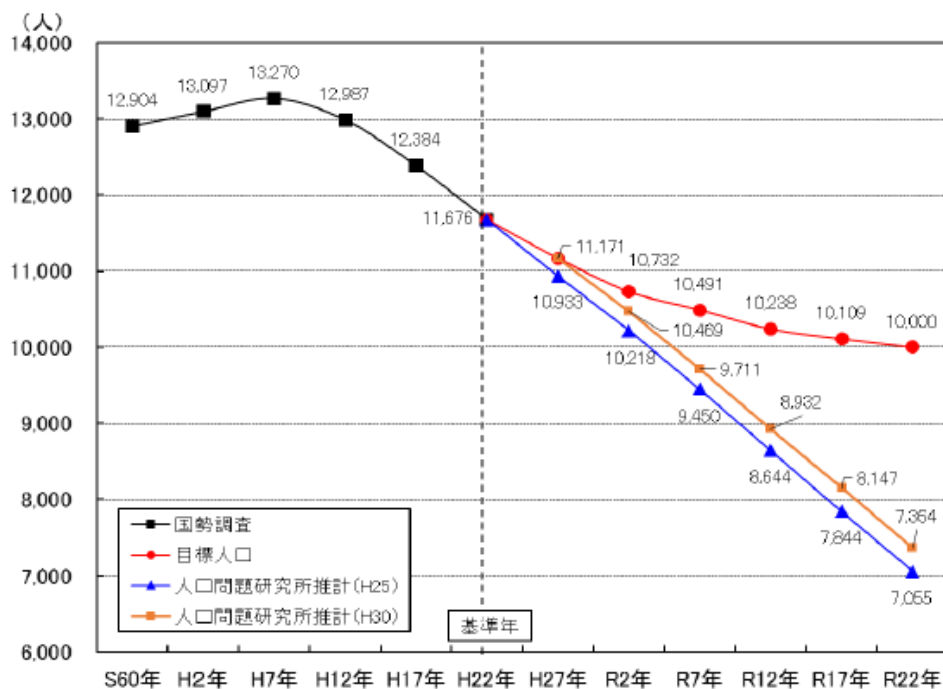


図 将来目標人口

出典：第2期松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略

2. 松田町都市計画マスタープラン

交通体系の整備方針の中で、公共交通に関しては次のような施策が定められています。

【公共交通網の維持・充実とシームレス化の推進】

- 交通結節点となる鉄道駅周辺の“シームレス化”に向けた環境整備
- 鉄道による広域ネットワークの維持・拡充
- バス交通の維持・充実
- 公共交通の利用促進による低炭素型まちづくりへの移行

3. 新松田駅周辺整備基本構想・基本計画

「新松田駅周辺整備基本構想・基本計画」は足柄上郡の玄関口としてふさわしい交通結節機能及び商業交流機能の充実を図り駅利用者の安全・安心を確保するとともに、賑わい・活力を生み出すまちづくりを行うための実現方策や整備手法を整理し、整備の早期実現を目指すものです。

【まちづくりの将来像】

～足柄上地区の玄関口 賑わい・活力を生み出すまちづくり～



出典：新松田駅周辺整備基本計画

4. 足柄広域新モビリティサービス事業計画（素案）

事業計画（素案）では、新モビリティサービスとして、多様な利用者ニーズに迅速に応えられ、シームレス化が図られるA I オンデマンド運行システムの運行を提言しており、令和4年度以降、地域公共交通会議等において改めて「地域の交通のあり方」を議論したうえで、地域にとって必要とされるあり方を確立していくものとしています。

5. 松田町立地適正化計画

【居住誘導区域】

- ・居住誘導区域は、人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスや公共交通が持続的に確保されるよう、人口密度の維持や誘導を図る区域です。
- ・鉄道駅 800m 圏+神山・茶屋地区

【都市機能誘導区域】

- ・都市機能誘導区域は、商業・医療・福祉等の都市機能を都市拠点、地域拠点等に誘導することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域です。
- ・都市機能誘導区域は、都市計画マスタープランにおいて中心拠点と位置づけられており、さらに都市の中心や交通結節点へのアクセス性が確保されている区域として、約 30ha の区域を設定しています。

【公共交通ネットワークの確保方針】

- 鉄道による広域ネットワークを維持・拡充するため、JR御殿場線や小田急小田原線のより一層の利便性向上とネットワーク強化に向けて、公共交通機関に積極的に働きかけます。
- 現状で都市機能誘導区域外に立地している誘導施設については、公共交通を充実させることで中心市街地と密にネットワークし、利用者の利便性に配慮します。
- 本町は中心市街地と地域拠点、観光拠点である寄地域との距離が離れているため、集落から拠点（市街地）への移動、市街地内での移動に際しては、主に集落と市街地を結んでいる路線バスの維持・充実を図ります。

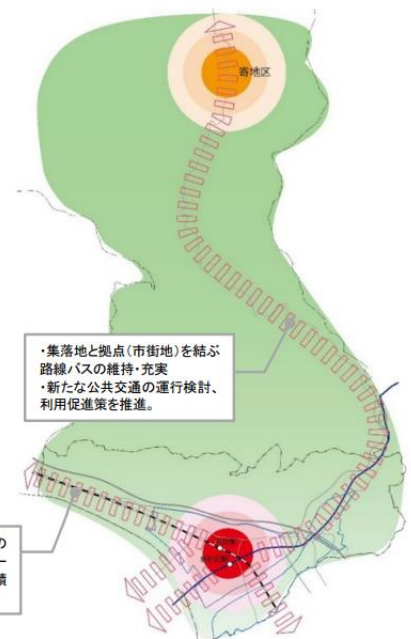


図 公共交通ネットワークの確保方針
出典：松田町立地適正化計画

1-4 地域特性の整理

1. 都市圏特性と松田町の位置づけ

松田町が属する足柄上郡は、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町により構成され、歴史的にも小田原広域都市圏の一角を担ってきました。

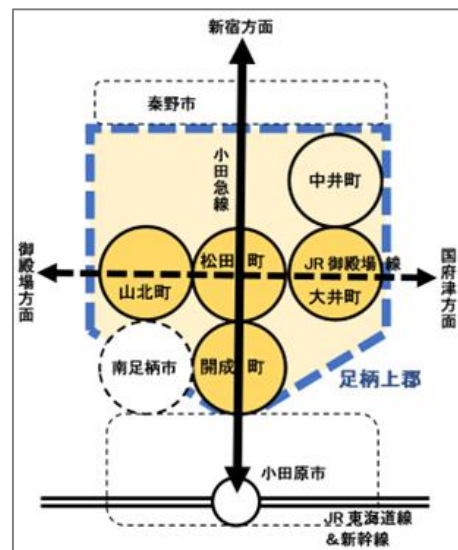
特に松田町は、歴史的に郡庁所在地でもあり、東西・南北軸の交通の要衝となっています。

足柄上郡の広域交通網は、鉄道は新宿～小田原間を結ぶ小田急小田原線を基幹として、それを補完する形で単線の沼津～御殿場～国府津間のJR御殿場線が東西方向に伸びています。

基幹道路網は、小田急線と併行に走る国道246号が各町を貫く東西の生活交通の骨格とともに、隣接する小田原都市圏には国道255号及び県道711号をもって連結しています。

この主要交通骨格に中井町を除く4町が形成されていますが、日常生活の動きはJR御殿場線が単線で運行本数が少ないこともあり、利用者ニーズに応えきれていないことから、JR御殿場線に依拠する大井町、山北町、松田町の町民はマイカーで新松田駅に乗り継ぎアクセスする傾向がみられます。

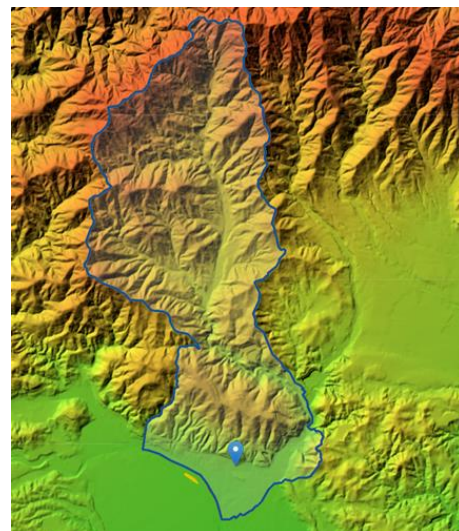
また、松田町と大井町は買い物、外食、通院等の利用目的では相互補完の関係にあるといえます。



2. 地形・地勢により町域南北で大きく異なる交通条件

松田町の地形は、町域を東西に走る東名高速自動車を境にして南側の平野部と北側の丘陵・産地部とに大きく二分されます。

この地形条件により町域北側の寄地域では、中津川とほぼ並行して山間を縫うように通る県道710号神縄山線が町域南側の平野部とを結ぶ唯一の地域主要道路となっており、道路交通の利便性及び路線バスの運行ルートにも制約が加わるものとなっています。



3. 高齢化の進展に伴う交通需要の変化

高齢化社会の進展に伴う課題のひとつが、交通システムです。高齢になると、新たな移動手段、特にマイカーに代わる移動手段が必要になります。マイカーの代わりによく利用されるのは電車とバスですが、利便性が高く充実した公共機関が整備されている都市部でさえも高齢者が利用しやすいサービスとは言い難い状況です。特に、高齢化率が本町全体の平均よりも高く、公共交通機関を路線バスとタクシー等に依存している寄地区では、高齢者を悩ます「モビリティ格差」が深刻化しています。

例えば自宅が坂の上や丘陵地にある場合や、買い物した荷物を抱えて自宅まで歩く場合などは、より歩行が厳しくなり、雨風の強い日や気温の高い日など、気象条件によっても移動の負担が異なります。また、比較的平坦な市街地においても、車や自転車の走行量が多い道路、段差がある道路では神経を使うなど、高齢者にとっては移動困難の問題が既に発生していると考えられます。

さらに、高齢化の進展に伴い、交通死亡事故に占める高齢運転者の割合は近年上昇しています。平成29年3月には、認知症対策を強化する改正道路交通法が施行されました。今後、さらなる高齢者の増加が見込まれる中、運転に不安を持つ高齢者が、自家用車に依存しなくても生活できる公共交通環境の整備は極めて重要となっています。

4. 日常生活における広域的な移動の実態

既往調査においても、本町住民の日常生活における移動の範囲は町内にとどまらず、隣接市町村に及んでいます。

この要因の一つには、町内に立地する商業施設が数・規模ともに小さいことがあげられます。このため、日用品の買い物も含め、隣接する大井町、開成町の大規模小売店舗で購買することが多くなっています。

また、医療機関の利用についても、町内には県立足柄上病院が立地していますが、全ての医療需要に対応しているわけではなく、他の地域にある医療機関への移動の需要も高くなっています。

さらに、町域北部の寄地区では、日常的な生活需要から派生する移動についても、最低限駅を中心とした中心市街地までの移動を伴うこととなります。これは日常生活に必要な都市機能（商業・福祉・医療・教育等）の集積が駅を中心とした中心市街地に集積されている都市構造から必然的に生じる移動となっています。